

題名 海の色

作者名 向井 麻夏（むかい まな）

学校名 高槻市立芥川小学校

学年 二年

私は8才の女の子です。高つき市立あくた川小学校に通う小学2年生です。私は生まれた時からほぼ目が見えません。色は分かりません。だけど海の色だけはなぜか白色に見えます。なぜみんな海の色を青色というのだろう。ずっとふしぎでした。

去年の夏休みに家ぞくで和か山県へおはかまいりにいきました。おはかの場所は、海が近いよとお父さんが教えてくれました。そしてお父さんから「海で、パラグライダーで飛ぶみたいけど、やってみる？」と聞かれました。「パラグライダー？何それ？」と聞いたら「空を飛ぶスポーツだよ」とお父さんが教えてくれたので、なんだかワクワクしてやってみたくて伝えました。「空から海を見たらもしかしたら青色に見えるかも」とお母さんが言いました。

一緒に空をとんでくれるお兄さんがやってきました。「カバン、重いけどせおえる？」と聞かれたので、「うん」と言いました。せおうといつも学校にもっていくランドセルと同じくらいの重さでした。そのあとすぐに、工事の音みたいなブーンという音が鳴り体がビクッとなっていました。「今の音、何？」お兄さんに聞くと「空を飛ぶためのエンジンのおとだよ」といわれ、私は集中できるかとても不安でした。なぜなら「このかばんの中には何が入っているのだろう」「そもそもエンジンって何だろう」「どうやって空を飛ぶんだろう」「海は青いのかな」と聞きたいことがいっぱいになってしまったからです。「出発するよ」と、お兄さんからいわれました。ブーンという音とともに体がふわっと浮きました。空の上はとても冷たくて、冷とうこのように寒く感じました。すごく速いスピードでまるでジェットコースターみたいでした。下を見ると、青色が見えました。お兄さんが「海の上を飛んでいるよ」と教えてくれたので、海の色が青色だとわかりました。「青い海だ」なんだかうれしくなりました。

近くでみたらうみは白いのに上からみたら青い色にかわることをわたしは今日勉強できました。